福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024 年　1 月　29 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人　東京都福祉保健財団理事長　殿

〒　150-0012

所在地　東京都渋谷区広尾1-1-35マンション広尾台808

評価機関名　一般社団法人Riccolab.

認証評価機関番号　機構 17 ― 241

電話番号　03-6433-5280

代表者氏名　渡辺　真紀　印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①	岡田賢宏	経営	H0201011
	②	後藤涼子	福祉	H1701021
	③	渡辺真紀	福祉	H0201062
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	小さなおうち保育園			
事業所連絡先	〒	156-0057		
	所在地	東京都世田谷区上北沢3丁目1番20号		
	TEL	03-6379-6571		
事業所代表者氏名	施設長　中溝　るり子			
契約日	2023 年　9 月　1 日			
利用者調査票配付日（実施日）	2023 年　10 月　6 日			
利用者調査結果報告日	2023 年　12 月　4 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年　10 月　31 日			
自己評価結果報告日	2023 年　12 月　4 日			
訪問調査日	2023 年　12 月　11 日			
評価合議日	2023 年　12 月　11 日			
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	利用者調査は、オンライン回答システムによるものと紙ベースでのアンケート調査を実施した。職員自己評価においては、職員自己評価記入要領を配布するとともに、実施方法を録画した動画を使用して職員説明会を実施し、第三者評価及び職員自己評価への理解を深めた。オンライン回答システムによるものと紙ベースでの自己評価分析を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、
- ◉ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ◯ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ◯ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024 年　1 月　29 日

事業者代表者氏名 中溝　るり子　印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　　令和5年度

《事業所名：小さなおうち保育園》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	1）一人一人の子どもの人権や主体性を第一に考え、保護者と共に子どもの最善の利益を守ります。 2)子ども一人一人が自己肯定感を持ち、安心して自主的に活動できる環境を整えます 3)子どもの成長発達を理解し、個々の子どもに合わせた活動を通して心身の発達を育みます。 4)さまざまな体験を通じて、心身共に健康で、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを養います。 5)地域で子どもたちが健やかに成長できるよう、地域との関係、他機関との連携強化を図ります。
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	社会福祉法人福音寮の基本理念“ほっとしたつながりで育ち合いましょう”を元に、福祉の心を持って仕事に向かう姿勢 将来の子ども像を描きながら、大人として責任をもって子どもを支え、自己を高めていけるような職員。 自分の意見を持ち、いろいろなことに立ち向かい、考えて行動にできる職員
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	子どもと保護者に優しさと、受容する気持ちを持ち、相手の状況を受けとめ、相手の立場に立って支援できる人を求めます。 人としての基礎を作り上げていく、大事な乳幼児期あり、大人の関わりが最も重要であることを自覚し責任をもって保育を行っていく事を望む。

《事業所名: 小さなおうち保育園》

調査対象	保育園を利用している世帯
調査方法	オンライン回答システムと紙ベース回答によるアンケート調査

利用者総数	27
利用者家族総数（世帯）	25
共通評価項目による調査対象者数	25
共通評価項目による調査の有効回答者数	23
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	92.0

利用者調査全体のコメント

調査対象世帯25名中、23名から回答を得ることができた。満足度が高かった項目としては、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」「安全対策が十分取られていると思うか」「子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。総合的な満足度では、21名が「大変満足」2名が「満足」の回答であった。子どもが安心安全な環境でのびのびと楽しく毎日を送っており親としてこれ以上のことを望むことは何もありません、保育士の皆さんが子供に温かく接してくださっているのを垣間見ているので安心して預けることができています、少人数のため細かいところまでよくみてくれていると感じています、いつも笑顔で温かい対応をしてくださるので安心して通っています、などがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	23	0	0	0
回答者全員が保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っていると回答している。毎日楽しく通っておりたくさんのことを覚えてきます、普段お家で時間に追われてゆっくり子育てできないと感じている時に普段私が手を出してしまっていたことを子供が自分でできていたことを知ると保育園での生活のおかげだなぁと感じます、日々先生方やお友達から刺激を受け役に立っていると感じます、などがあがっている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	23	0	0	0
回答者全員が保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっていると回答している。行事など子どもたちの興味関心に沿った内容でとてもいいです、毎日楽しそうに報告をしてくれます、保育園でやったことを家でもやりたいというので興味や関心を持つ活動をしていただいていると感じます、などがあがっている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	22	1	0	0
22名が提供される食事は、子どもの状況に配慮されていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。毎日の給食とおやつが楽しみになるメニューで栄養バランスも最高だと思います、毎日今日もおいしかったと言っています、家では食べない野菜も保育園では食べるそうなので工夫されていると感じます、もう少し魚の種類を増やして欲しいです、などがあがっている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	22	0	0	1
22名が保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。十分です、ばけばけはっぱをしたよ実を見つけたよなどたくさん報告してくれます、お散歩は色んな公園へ連れて行ってくださったり金魚を購入に行ったり楽しい体験をいつもしていただいてます、コロナが落ち着いて以前よりより社会と関わる機会が持てていると感じます、などがあがっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	20	0	0	3
20名が保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。今まで利用したことのある園で一番柔軟にご対応いただいています、との回答があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	23	0	0	0
回答者全員が安全対策が十分取られていると思うと回答している。避けようのない怪我をしてしまった際も細かく説明してくださいます、との回答があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	21	2	0	0
21名が行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分と回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。かなり前から日程を予告していただけるので大変助かります、との回答があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	23	0	0	0
回答者全員が子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があると回答している。先生方をとても信頼しています、連絡帳にも細かく書いてくださいます、いつでも相談できる雰囲気があり職員の方々は常にプロフェッショナルな対応をしてくれます、子供だけでなく親に対しても温かく対応いただいてオープンな関係性でいれて嬉しいです、などがあがっている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	22	1	0	0
22名が施設内の清掃、整理整頓は行き届いていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。整理整頓は子どもでもわかりやすいようにしてくださっています、との回答があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	22	1	0	0
22名が職員の接遇・態度は適切と回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。これまで利用したことのある園で一番信頼出来ると感じています、いつでも気持ちよく挨拶していただけますしとても丁寧で良い職員さんしかいらっしゃいません、などがあがっている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	23	0	0	0
23名が病気やけがをした際の職員の対応は信頼できると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。全幅の信頼を置いています、親身になって色々お話ししてくださいます、お迎え要請の電話の際も状況がよくわかるように説明いただけて助かっています、などがあがっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	21	1	0	1
21名が子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。あまり目にすることはありませんが時々取り合いなどを見かけ先生方は優しくもしっかり対応されていると感じます、まだそんなに大きなことになっていないのでわかりません、何があったのか報告いただけるので信頼しています、などがあがっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	23	0	0	0
回答者全員が子どもの気持ちを尊重した対応がされていると回答している。とてもそう思います、トイレなど適切に指導してくれています、子どもが不安定になった際も親身になって声かけしてくださっています、子どもから職員さんへの不満を聞いたことがないので日々気持ちを大切にしてくださってると感じます、などがあがっている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	22	1	0	0
22名が子どもと保護者のプライバシーは守られていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。特にコメントはあがっていない。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	22	1	0	0
22名が保育内容に関する職員の説明はわかりやすいと回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。weeklyで活動計画を掲示してくださっているので助かります、もう少し頻繁に面談などフィードバックが欲しい、などがあがっている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	20	0	0	3
20名が利用者の不満や要望は対応されていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。不満はないので伝えたことはありませんが要望にはご対応いただいています、不満がないです、などがあがっている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	20	1	1	1
20名が外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられていると回答している。保育園の玄関にも掲示されています、との回答があった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	◯非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	◯非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	◯非該当

カテゴリー1の講評

地域支援や家庭支援等、園を通う家庭も含めた地域全体への貢献を目指し取り組んでいる

園の名称にもある通り、各クラス6名定員の小さな園で、家庭的であたたかな雰囲気を大切に、子ども一人ひとりに寄り添った保育を目指している。また、法人として児童養護施設等を運営するなかで、地域支援や家庭支援を、園に通う家庭も含めた地域全体を対象に取り組む方針で運営している。職員には毎年、年度初めに方針を伝えている他、保護者に対しても、例えば、法人で実施しているこども広場への参加経験がある家庭が入園する場合もある等、事前に園の方針や取り組みについて理解したうえで利用につながる状況もみられている。

園長は、園内外での検討会議等へ出席し、課題等を把握しつつ園の運営をリードしている

園長は、法人内で運営されている3園全体を統括する立場としても行動しており、3園園長会での検討事項や、私立園長会、保育ネット等で課題にのぼった事柄も含めて、適宜、職員へ伝えつつ園全体をリードしている。一方で、園長が出席する会議が多く、多忙を極めていることが課題の一つとなっている。次年度からは、園長と主任の間に、新たに副園長のポストを用意することも検討し、園内外でのニーズに対応できる組織体制を確立し、運営を進めていくことを予定している。

重要な案件について、園だよりや連絡帳、玄関先への掲示等を通じて保護者へ伝えている

保護者に対して園が重視していることや、子どもの保育に関連する重要な案件を伝えるために、保護者会の開催や園だよりによる情報提供を行っている他、例えば、感染症の発生状況等を園の玄関先へ掲示する等により、文書で周知を図っている。また、日頃の送迎時に園長等から直接伝達したり、個別の連絡帳のやりとりの中でも重要な案件について丁寧に説明する機会を持つことにより、保護者の理解が深まることを目指して取り組んでいる。

	カテゴリー2
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
◉あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
◉あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
◉あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

関連する地域ネットワーク等から保育業界や地域福祉の現状を把握し、参考にしている

園運営を取り巻く環境を把握するために、保護者についてはアンケートを実施して集約する他、職員については人事制度上の個別面談や、衛生委員会の開催等で労働環境の把握に取り組んでいる。また、保育ネットや公私立園との会議に加え、児童館や学童クラブ等との連携も含め、区内の対象エリアで児童福祉に関する事業を展開している法人・施設等とも直接、意見交換する機会を持ちながら、共通課題の共有等を深めつつ、園として取り組むべき領域等の抽出に努めている。

3園合同の委員会を通して事業環境把握に努め、将来ビジョンの明確化に取り組んでいる

中・長期計画の立案については、法人内の3園合同の未来構想委員会で検討を進めており、園長だけでなく職員もメンバーに加わる形で取り組んでいる。具体的には、区の人口や出生数の現状や虐待対応状況、他園の取り組み例等の情報を収集しながら、将来的に法人内で運営する園の数についてや、地域交流に向けた新たな取り組み、入園希望者へ園の情報をアピールする方法等、さまざまな領域について検討を重ねながら、将来ビジョンの明確化を目指している。

経営進捗状況表を毎月作成して運営状況を把握し、計画の着実な実行に努めている

単年度の事業計画は法人内の保育園事業計画として立案することが定着している。「子どもの権利、意見表明を具体化した保育」、「保護者や地域との連携・支援」、「職員の人材育成・専門性の向上を図る」、「保育園の中・長期計画の実施に向けた企画・検討案の具体化に向けた取り組み」の4つを基礎に、各園で事業計画を作成している。進捗管理方法は、毎月、経営進捗状況表を作成して確認する他、半期での総括等も行いながら、年度内の重要課題や目標の達成に向けて取り組んでいる。

	カテゴリー3		
3	経営における社会的責任		

サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4

評価項目1
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◉あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
◉あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
◉あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

	カテゴリー3の講評
	子どもの人権チェックシートに基づく振り返り等で、権利擁護の姿勢維持を図っている 子どもの人権や主体性を尊重した保育について各職員が基本姿勢を維持することができるように、所定の「子どもの人権チェックシート」に基づき、年4回、それぞれの職員が自らの言動等を振り返りる機会を用意している。また、幼児については意見表明する機会を持ち、子どもが望む保育環境作り等へ反映している。乳児については、自分の考えを言葉で表現することが難しいため、職員が子どもの様子を把握しつつ、何を求めているか等を推察しながら、日頃の保育に反映できるように努めている。 **第三者委員を掲示で紹介する他、保護者の要望等に即対応し、信頼関係構築に努めている** 苦情解決の一連のしくみが整備されており、今年度委嘱している5名の第三者委員を紹介するポスターを園の玄関先に掲示して保護者の理解が得られるようにしている他、法人全体で苦情解決委員会を定例開催するなかで、園に寄せられた意見や要望等をまとめて報告する等、透明性を高めている。なお、今年度は苦情に発展した事例はなく、日頃の連絡帳のやりとり等で寄せられる意見や要望については、即日対応する姿勢で取り組むことで、迅速に対応し、保護者との信頼関係の構築につなげている。 **実習生の受け入れや地域の子育て家庭の支援等、専門性の還元を積極的に進めている** 園の専門性を還元する取り組みとして、新型コロナウイルス感染症が5類となったことを受け手、実習生の受け入れ人数も増え、計画的に対応しながら将来の保育人材の育成に寄与している。また、ボランティアについても、春休みと夏休みに卒園生を受け入れることが定着しており、今年度も多くのボランティアが活動している。さらに、地域の子育て家庭に対して、プールや園庭、砂場の開放や、母親向けのホットタイムの実施等で、職員が子どもを預かり、子育てから少しの時間開放され好きなことに取り組み楽しめる場を設けている。

	カテゴリー4
4	リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
◉あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
◉あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○非該当
◉あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
◉あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
◉あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当

カテゴリー4の講評

階段の部分にドアを設置したり、インカムの導入等で、安全性の向上を図っている

子どもの事故が発生しない環境作りとして、今年度は階段でのぼった2階の部分を、柵からドアへ変更することで、安全性を高めている。また、階段を降りるときに転倒する危険があることを子どもから声があがったことをきっかけに、階段の各ステップ部分に足型を形作った紙を貼り、子どもが確認しながら降りるようにする等、子どもの意見の反映も意図的に進めている。さらに、インカムを導入して、園内での職員の情報のやりとりはもとより、遠足で山に出かけた時や広い公園でも迅速に情報交換しながら、リスク回避できる環境も整えている。

ヒヤリハット事例を把握し、3園合同で共有・分析するしくみが定着している

日頃の保育場面に潜むリスクについて、各職員がヒヤリハット報告書を提出することで情報を蓄積しながら事故予防対策を講じるしくみが定着しており、3園合同で情報を共有しながら安全対策の強化に努めている。今年度は、ヒヤリハットの分類項目を厳選する等、さらなる充実に取り組み、毎月、各園でのヒヤリハット報告の事例を集計・分析しながら、事故が発生しやすい曜日や天候、場所、時間、部位等を数値やグラフで示し、職員間で事故が発生しやすい場面をわかりやすい形で共有しながら、注意を喚起している。

書類とデータ情報の管理方法を明確に定め、情報の漏えい防止や保護に取り組んでいる

園で蓄積される情報は、事務室で一括管理し、書類については鍵のかかる書庫等、保管する場所を決めて各職員が整理しながら収納することで、情報をスムーズに取得しやすくするとともに、機密書類については外部へ持ち出されることがないようにしている。また、パソコンに入力されているデータ情報につても、パソコン等使用規程やネットワークコンピュータシステム利用管理規程、電子メール管理規程等、法人として運用ルールを定め、園の職員が遵守しつつ取り扱うことで、情報漏えい防止や情報の保護に取り組んでいる。

	カテゴリー5
5	職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1(5-1)

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点(○○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
◉あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
◉あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点(○○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
◉あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
◉あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
◉あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

新規職員の採用活動の充実・強化を図る一方、計画的な確保が難しい状況となっている

職員の採用に向けて、法人のホームページでの募集に加えて、区の保育ワークへの登録や就職フェアへの参加等、実施している。また、新卒者の募集活動を、これまでの年2回から年4回に増やすことで、より多くの入職希望者の確保に取り組んでいるが、計画通りの採用につながらないことが課題となっている。一方、法人のスケールメリットを生かして人事異動によって適材適所の配置に取り組んでいる他、保育を担当する非常勤職員を有資格者で構成する等、保育の質の維持を図っている。

他園の保育実践や保育環境に触れる機会を持ち参考にしながら、専門性向上に努めている

職員の能力向上を目指して、人事評価のしくみの中で育成に関する事項を盛り込み、個別の研修ニーズを提示しつつ、それぞれの学びの機会を用意できるように努めている。特に今年度は、他県も含めて、園の保育の参考になると思われる園へ複数の職員で見学に出かけて、保育実践や保育環境等に直接触れる取り組みを促進している。職員会議で学んだ成果を発表する場面も用意することにより、経験して得た内容を園の保育へ反映すること等を検討し、総意の下で導入する等により、園の専門性の向上につながることを目指している。

衛生委員会での検討で職場環境の改善を進める一方、休憩時間の確保が課題となっている

働きやすい職場作りとして、昨年度までの健康委員会から、法人内の園の職員数が増えたこと等を勘案して衛生委員会と変更となり、毎月、職場環境の改善に向けた検討を進めている他、園舎から離れた場所に専用の休憩室を設置するための改修工事を行い、一日のなかでノンコンタクトタイムを確保できる環境を整備している。なお、実際には休憩時間が十分確保できていない状況が課題となっているため、職員の勤務シフト等も勘案しつつ、確実に休憩できる機会を用意していくことが期待される。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

子どもの人権擁護と子どもが主体の保育を目標に設定した。
実際に、関連する内外研修を年度当初に計画し進めた。また、子どもの困り感を通して話し合う場を多く作った他、ミニアセスメントシートに記入して乳児・幼児ともに月1回の話し合いの場を持った。
結果として、外部研修は各職員に見合った研修を進め、Zoom研修や実践等の動画配信は全職員が理解して実践にいかせるように受講の機会を持った。また、内部研修では研修担当が中心となり困り感等を発言することで振り返りの機会を作る等、計画的に進めることができた。
今年度も目標を継続して取り組むとともに、子ども一人ひとりの発達に合わせた丁寧な保育を展開しながら、職員全体で子どもの困り感を把握し、お互いに意見交換する機会の充実を図ることを目指している。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園では、子どもの人権擁護や意見表明権の保障等を、保育の質に直結する課題と認識して、保育士の育成を計画的に進めることで、子ども主体の保育実践が展開できることを目指して取り組んでいる。子どもの困り感を把握するために導入しているミニアセスメントシートの取り組みを通して、職員間でシートの内容を共有し話し合いながら、具体的な保育実践につなげることができるように取り組み、一定の成果がでている一方で、把握した課題についての話し合いが難しい場面も見られた。また、内外研修についても年度当初計画したものを進捗管理しながら進めることができた。そこで、今年度もミニアセスメントシートに基づく状況把握が定着したことを受けて、引き続き、子どもの人権擁護と子どもが主体の保育を目標に掲げるとともに、職員の育成も並行して進めながら、話し合いで課題解決や保育の具体的な方針を明確にできる力を身につけられることを目指して取り組んでいる。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

園が目指している地域支援や家庭支援について、それぞれ具体的な活動の推進を目標に設定した。
実際に、気軽に保育園へいつでも来られる環境作りに取り組み、開園している時間はいつでも地域の子育て家庭の来園を受け入れ、夏にはプールを開放したり、公園での砂場提供も行った。また、保育園に集合して一緒に散歩へ出かける取り組みや、手作りマルシェを企画して地域住民に広く参加を募った。
結果として、それぞれの活動について一定の成果はみられたが、まだまだ園が目指している地域支援や家庭支援について、地域住民の理解が進んでいないことが課題となった。
そこで今年度も目標を継続するとともに、職員の得意な分野を手作りマルシェの機会に活用したり、さらに地域の子どもと園の子どもたちが一緒に遊びを展開できる環境を工夫することを目指して取り組んでいる。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園では、開設当初から運営方針として掲げている地域支援・家庭支援を実践することで、少子化で各家庭での育児能力が低下傾向にあること、相談する人が近隣にいない地域の子育て家庭への貢献を目標に取り組みを進めている。日頃の園開放や夏のプール開放、砂場提供、手作りマルシェ等、さまざまな園独自の地域向けの企画をPRしながら実施し、地域子育て家庭はもとより、地域住民の参加も得られる等の成果がみられている。また、手作りマルシェの企画には、保育士や事務職員にも意図が伝わり、園全体で取り組めるようになる等、副次的効果が出ている。今年度も引き続き、地域支援・家庭支援に向けた実践を積み重ね、園が目指している方針について、さらに地域住民の理解が深まることを目指して取り組んでいる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点（○○○○）	
	評価	標準項目	
	◉あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	◉あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
	◉あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	◉あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当

サブカテゴリー1の講評

法人のWEBサイトを通して、園の特色や概要等の情報を提供している

法人全体のホームページの中で、法人最初の園として「小さなおうち保育園」が開設されたことや、園の方針、園の特色、概要には1歳児から5歳児までの各クラス6名定員の少人数園であること等が掲載されている。イベント録には法人3園が交代で園の様子を掲載しており、小さなおうち保育園では近隣の農家でのさつま芋掘りの様子を、写真と共に掲載しており、過去のイベントの様子等も通して園の様子を感じることが出来る。現在法人として取り組んでいるIT化やWEBの活用と充実により、さらなる園の情報発信が期待される。

法人のおでかけ広場やお祭り等を通して、広く園の情報を地域の方へ提供している

法人本部で実施している、区のおでかけ広場事業「ぽぽちゃん広場」に、地域の方が参加する時には小さなおうち保育園の前を通ることや、「ぽぽちゃん広場」では保育園栄養士や看護師による相談会を継続して参加者に喜ばれている。更に年間を通して園庭開放と夏には園内での水遊びを企画して、「ぽぽちゃんひろばイベント」に掲載して、地域の方へ参加を呼び掛けている。昨年度より再開した法人主催のお祭りでは法人3園の保育園ブースを作り、地域の方や卒園児の親子等との交流を楽しみながら、園の情報を広く地域へ提供している。

今年度から園内での見学を再開して、保育や子どもの様子をゆっくり見てもらっている

見学はいつでも電話で受け付けており、日程もできるだけ希望に応じている。保育の様子や子どもの姿を見てもらえるよう、時間帯は10時から午前中を勧め、少人数園のため1家庭ずつの個別案内を伝えて理解を得ている。今年度からは園内に入り、1，2階の保育室の案内と説明を行い、見学者がゆっくりと保育を見学できるようにしている。少人数園の良さとして目が届きやすい反面、手をかけ過ぎないように気を付けている事や、5歳児は法人園3園と定期的に交流を行い、大きな集団活動や遠足等を体験して、就学に向けている事等を伝えている。

	サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	◯非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	◯非該当

サブカテゴリー2の講評

全体会で重要事項や基本的なルールについて、園長から説明をして確認書を得ている

園では3月の土曜日に、新入園児の保護者対象に入園説明会を開催している。園長から保育園のしおり（重要事項説明書）に基づいて保育理念・保育目標・保育方針の説明から、給食、保健衛生、災害時の対応や避難場所の確認等、丁寧に保護者へ説明している。さらに保育園と家庭との連絡として連絡帳のやり取りや、行事・保育参加・保護者会等の開催と参加、感染症による出席停止基準の表の説明も行い、保護者の理解を得るようにしている。そのうえで「確認書」の書面に項目別に保護者にチェックしてもらい、同意の署名を得ている。

個別事情がある場合には、書面と共に個別面談で丁寧に聞き取っている

園では様々な個別配慮が必要な子どもも受け入れており、入園の際には子どもがスムーズに集団生活を送れるよう、必要な対応方法や配慮等を個別面談の中で、確認するようにしている。食物アレルギーのある場合には法人姉妹園の看護師に同席してもらい、子どもの主治医による「生活管理意見書」の内容を確認しながら、保護者と面談を行い、園での給食の対応方法や園生活での配慮等を確認している。障害等がある場合には保護者に子どもの特性や対応方法を確認しながら、通所施設の情報等も得て集団生活の中での配慮等を相談し合っている。

卒園後も継続した繋がりとして夏休みボランティアを再開して、卒園児が来園している

卒園の際には卒園後の継続した支援と、行事や夏休みボランティアの際には参加して欲しい事等を伝えている。今年度、3年ぶりに夏季ボランティアの受け入れを再開して、多くの卒園生が参加している。感染症流行で中止していた期間を考慮して、小学1年生から3年生までの子どもたちへお手紙を配布して、電話でも誘い掛けている。保護者に確認のうえ、一日1名9時から16時の参加で給食の提供も行っている。在園児と懐かしみながら一緒に遊び保育士の手伝いを行い、お昼寝の時間帯には夏祭りの提灯づくりを行い、夏祭り当日にも手伝いに来園している。

サブカテゴリー3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13／13

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
◉あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○非該当
◉あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
◉あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
◉あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○非該当

評価項目3
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
◉あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
◉あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

保育の計画の振り返りの時期を明確にして、職員が丁寧に取り組んでいる

園では月・期・年毎に、振り返りを丁寧に行い、見直して次の計画に反映させる等、PDCAサイクルを意識しながら取り組むようにしている。月末には月の計画の振り返りを行い、取り組んだ活動による子どもの姿や意欲等が、具体的に記載されている。子どもの姿に反映されなかった内容については見直しを行い、翌月の計画の中でやり方等を変えて取り組むようにしている。更に振り返りの末尾には「職員の動き・不適切保育」の項目を設けて、職員の連携の不備や改善、室内の整理整頓等を記載して、翌月に繋げる等丁寧に振り返りを行っている。

保育の計画や取り組みや報告は、保護者会でわかりやすく知らせている

年2回の保護者会を開催しており、今年度の春の保護者会は各家庭1名の参加に制限して、園内で夕方の時間帯に実施している。今年度のクラス目標や年間の計画、この1年間の子どもの成長発達の特徴等を、資料の配布と共に担任から説明を行うことで、保護者が子どもの発達への目安を持てるようにしている。また全クラスの週の計画表を作成して、玄関に掲示しシステムでも各家庭へ送信も行い、その様子や取り組みはドキュメンテーションで報告を行っている。年度末の保護者会では1年間の子どもの成長の姿と共に、保育計画の報告を行っている。

ミニアセスメントシートを継続して、職員間で子どもの事例を話し合い理解を深めている

子ども主体に子どもの困りごとに着目して、子どもを肯定的に捉えなおし理解する試みとして、数年前から「ミニアセスメントシート」を導入して職員間で話し合いを深めている。今年度も継続して日々の保育の中で気が付いた子どもの姿を、職員がメモに取り担任間で話し合い解消しない事例や共有したい事例を、ミニアセスメントシートに記載している。月に2回アセスメント会議を開催して、全クラスがシートを持ち寄り、その中から1つを選択して職員間で話し合いを行うことで、子ども自身が困っていることや気持ちに理解を深める機会となっている。

	サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	◯非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	◯非該当

サブカテゴリー5の講評

個人情報の取り扱いについて、保護者へ説明し理解を得るようにしている

入園の際には、重要事項説明書の中に「個人情報の取り扱い」の項目を設けて、保護者へ説明している。園では「個人情報保護規定」を作成していること、個人情報は適切な保育の実施、運営事務の為に利用する事、写真・動画は販売用、ドキュメンテーション用に保護者に子どもの普段の生活を伝える目的で撮影する事が記載されている。さらに保育参加等で保護者の写真撮影の禁止と、行事等の写真のWEB掲載の禁止も記載して、保護者に説明して理解を得ている。年度末には重要事項説明書の内容を職員間で確認し合い、個人情報の保護を意識している。

区の保育の質のガイドラインを活用して、職員の子どもの人権への意識を高めている

子どものプライバシーの環境や配慮について、職員間で確認を行いトイレや着脱が見えないように工夫を行っている。また、区の保育の質のガイドラインの人権チェックシートを活用して、職員が日頃の自分の保育や対応の仕方等を振り返っている。その内容を全体で共有し振り返ることで、子どもの人権を意識した保育に繋げている。職員の研修報告書には、第三者が見た時に保育の意図が伝わらない場面もあり説明責任の必要性がある事や、上司からの間接的・直接的な指導があり助かる等の声が記載されており、子どもの人権への意識の高まりが感じられる。

区の関係機関との連携を図り、子どもの虐待防止に努めている

園では様々な事情の家庭への養育援助、虐待予防が園として大きな役割となっていることを認識して、毎日のミーティングでは登園時の子どもや保護者の様子等に変化がある場合には伝え合い、全職員で情報を共有して見守るようにしている。また区の虐待研修に職員を派遣して最新の現状や対応方法等の情報を収集して、職員会議の中で報告して共有するようにしている。子ども家庭支援センターや区に移管された児童相談所と連携して必要な情報を共有しあい、区からの虐待防止キャンペーン等のポスターを掲示する等して子どもの虐待防止に努めている。

	サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	◯非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	◯非該当

サブカテゴリー6の講評

保育園をめぐる制度や法令の変更に伴い、マニュアルの改訂を行っている

法人では保育園の運営に必要な各種マニュアルや手引書を作成して、各園に設置している。保育安全マニュアルや防災マニュル・食物アレルギー対応の手引き・虐待防止マニュアル等、その内容は制度や法令の変更に応じて見直しと改訂を行っている。改定内容は各園へ伝達されて、修正や差し替えを行うようにしている。更に毎年、保育園のしおり（重要事項説明書等」の内容の見直しを行い、制度や法令に照らし合わせて齟齬の無いように注意している。問題が発生した際にはマニュルで確認をしたり、チェックシートを用いて点検を行っている。

基本事項について職員間で周知を図りながら、見直しや改善に取り組んでいる

毎年1月頃からは全職員で、入園のしおり等の内容を確認して、新入園児面接の際に、保護者からの質問等に答えられるようにしている。更に「福音寮保育園の保育の心得」を会議等で取り上げながら、職員間に内容が浸透できるようにしている。他にも園内の安全点検の際にはチェックシートを用いて定期的に確実に実施し、ヒヤリハット記録もリスクマネジメント委員会で収集している。WEBを活用して3園のヒヤリハットの入力を行い、項目ごとにデーター化することで傾向等を把握しやすくして、園での環境改善に繋げている。

保護者や職員の意見を取り入れて、随時見直しを行っている

園では少人数園の良さとして園と保護者との関係が近く、保護者が気が付いたことはすぐに担任保育士や園長へ直接伝えてくれたり、連絡帳に記載している。今年度は保護者が気づいたフェンスの危険個所に対して、すぐに修理を行っている。他にも職員からのプール周囲のすべりやすさへの不安に対して、滑り止めを設置する等できる事にはすぐに対応している。また行事の終了後には、連絡帳に感想や意見などの記載をお願いして、年度末には各クラス毎に振り返りを行い職員会議の中で共有し合い、次年度の保育の計画や保育内容の参考にしている。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36／36

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	◯非該当
◉あり ◯なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	◯非該当

評価項目1の講評

ミニアセスメントシートを活用して、一人ひとりの子どもの全体的な姿を把握している

園では子どもを当事者として捉えるために、「ミニアセスメントシート」を用いた記録と話し合いに継続して取り組み、子どもの理解を深めている。子どもを主体に、その子どもの困り事や悩んだ事に焦点を当てることが多く、今年度はそうは見えない子どもの様子にも注視している。例えば一人の子どもの様子に注視してみると、同じクラスの特定の子どもとしか遊ばず、他のクラスの子どもとは関わろうとしない姿、姿勢や遊びの内容等を丁寧に把握している。その内容から混合保育の見直しと、子ども同士の関りを広げられるよう援助の仕方を工夫している。

異年齢保育の積み重ねの中で、5歳児が園内の問題解決に取り組んでいる

園では3，4，5歳児が2階のワンフロアの環境で生活をしている。進級したばかりの3歳児が階段に慣れない様子や、他の子の飛び降りの姿に5歳児が気づいて、初めてのこそこそ会議で相談している。自分の足形を型どり切り抜き足形マークを作成して、降りる方向で貼り付けている。3歳児の子ども達はそれを見ながら、一段ずつ自分で確認しながら降りている。異年齢保育の積み重ねにより、5歳児に進級した子ども達が自分たちも3歳児の頃から、年上の子ども達に様々な援助をしてもらったことを引き継いで、年下の子どもへ接している様子がわれる。

地域の保幼小の連携の取り組みを通して、小学校訪問を再開している

地域の保幼小の連携の取組として、「みどりの学びや」という団体を立ち上げており、その取り組みの一環として今年度、小学校見学や交流会を行っている。秋には近隣の小学校へ出かけて、5年生との交流会を楽しんだり、小学校と地域の保育園・幼稚園が関わる機会があり、小学校教育への円滑な接続に向けて取り組んでいる。さらに独自に近隣の保育園と連絡を取り合い、園長たちの対面での情報交換を行い、今後の5歳児同士の交流と、行き来できる関係作りにも取り組んでいる。他にも法人3園交流会を通して、大きな集団活動の体験を増やしている。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	◯非該当

評価項目2の講評

登園時には直接保護者に、子どもの健康状態や様子を確認している

全園児の登校園の時刻の入力には、タッチパネルを使用している。1、2歳児の子どもの受け入れの際には、連絡帳の内容を確認しながら視診を行い、3，4、5歳児は直接視診を行いながら、保護者に子どもの健康状態を口頭でも確認している。いつもとは違う様子等の際には、その場で保護者と確認を行うようにしている。3，4，5歳児はノート型の自由記載の連絡帳を使用して、保護者からの連絡事項がある場合には、内容を確認して答えるようにしている。連絡帳は手書きの記載となっており手書きの良さと、今後のIT化の方向を検討し始めている。

一人ひとりの子どもの指導計画を立案して、生活習慣の自立に向けて援助している

1，2歳児では一人ひとりの子どもの月の指導計画を立案して、基本的な生活習慣の自立に繋がるよう援助している。成長発達に個人差が大きいことを考慮して子どもの全体的な姿を把握して、月のねらいと配慮事項をその子に合わせて記載して取り組んでいる。2歳9ヵ月の子どものねらいには、「オムツが濡れたら保育士に知らせようとしたりトイレに行こうとする」が記載され、配慮にはトイレに座る意欲を尊重しつつ、本児のタイミングでオムツを確認する事が、記載されて取り組まれている。その様子は保護者へも伝え家庭と連携しながら援助している。

3 評価項目3
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉（発声や喃語を含む）や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	◯非該当
◉あり ◯なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	◯非該当
◉あり ◯なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	◯非該当

評価項目3の講評

遊びの環境を見直して、子どもがとことん遊べるコーナーを設置している

法人では保育環境の勉強として、他園の施設見学に今年度取り組んでおり、見学内容から園では、2階の幼児クラスの環境を大きく見直している。様々な紙や教材、素材、廃材等を揃えた棚と中央に大きなテーブルを設置した、とことん遊べるコーナーを作り、いつでも子どもが自由に制作やお絵描き等に取り組めるようにしている。ままごとコーナーにはキッチンセットの他に様々なメニュー表を設置したり、焼肉コーナーを設置して子どもの遊びの興味関心を広げている。2歳児室はままごとコーナーと机上遊びに分け、子どもの動線を考えた環境となっている。

3園の交流保育を通して、5歳児が集団活動に主体的に参加している

小さなおうちの5歳児の定員は6名と少ない為、就学に向けて大きな集団活動に慣れることを目的に、法人3園の5歳児の交流保育を今年度から毎週1回、定期的に行っている。ちいさなおうち保育園・みんなのおうち保育園・にじのおうち保育園、総勢32名の交流保育年間指導計画を作成して、散歩やルールのある集団遊び、様々な施設見学等を経験したり、グループ活動では高尾山遠足に向けて話合いながら取り組んでいる。当初は集団の大きさに気後れした子ども達も、回数を重ね様々な体験を通して集団活動に、主体的に参加できるようになっている。

様々な表現活動を通して、子ども達が思い切り楽しめるよう援助している

今年度の5歳児は恐竜に熱中しており、その様子から新しい図鑑をそろえ全員で大きな紙にはじき絵で恐竜を描く等、恐竜の世界を楽しんでいる。幼児クラスにはとことん遊べるコーナーを設置し、1，2歳児室にもクレヨンや粘土等を玩具棚に用意して、いつでも子どもが書いたり作ったりできるようにしている。夏には全クラスで水遊びや氷や泡、片栗粉、絵具、泥等の様々な感触遊びを取り入れて1，2歳児は五感で感じ、3，4，5歳児は不思議や発見を繰り返し楽しみ、夏ならではの感触遊びを全身で楽しみながら発展できるように援助している。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	◯非該当

評価項目4の講評

季節ならではの行事の由来や意味を、子ども達と一緒に楽しみながら知らせている

日本ならではの伝統行事を大切に、子ども達へ由来や意味をわかりやすく説明して、楽しめるようにしている。子どもの日の集いや七夕会、お月見会、新年子ども会、節分、ひなまつり等にちなんだ装飾や飾りを設置して、園内の雰囲気作りから取り組んでいる。七夕会では子ども達が笹飾りを作り、短冊を家庭へ配り親子でお願い事を記載して笹へ親子で飾り付けてもらっている。お月見会では5歳児が旬の果物を八百屋へ買いに出かけ、お団子作りもして飾りつけ、当日は担当の職員の創意工夫の下、由来や意味をわかりやすく楽しく子ども達へ伝えている。

親子ふれあいデーを通して、子どもが友達と協力し合い自信に繋げている

今年度から全園児の親子参加の、「親子ふれあいデー」という運動遊びの会を再開している。5歳児の子ども達が開会の言葉やダンスを、こそこそ会議で決めて練習に取り組んでいる。他にも3，4，5歳児が話し合いで、運動遊びの種目を縄跳び・登り棒・サーキット等に決めて、練習に取り組んでいる。その過程で苦手な縄跳びや踊りに苦慮する子どもが、自ら目標を掲げ取組もうとする気持ちと姿を大切に見守っている。1つ1つの体験を通し自信がつき、当日皆でダンスをする際には、園庭の築山に昇り笑顔で表現する等、子どもの大きな自信となっている。

行事の取り組みからドキュメンテーションで伝え、保護者の期待感を高めている

日頃から子ども達の様々な活動内容を、ドキュメンテーションを通して保護者に知らせている。特に行事前には子ども達の話し合いから内容、様子をわかりやすいドキュメンテーションで、保護者へ伝えている。「親子ふれあいデー」に向けてのドキュメンテーションには春から読み進めてきた本を題材にしている事や、今まで培ってきた子どもの力がそのまま発揮できる環境にして、子ども主導で保護者と一緒に楽しむプログラムであること等が記載されている。さらにみんなの頑張りポイントとして様々な活動を写真で掲載して、保護者の期待感を高めている。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	◯非該当

評価項目5の講評

全体的な計画の中に、発達を踏まえたた長時間保育への配慮を計画している

園では全体的な計画の中に長時間保育の項目を設けて、年齢ごとの発達を踏まえた配慮事項を記載して、年度初めに職員間で内容を把握して保育を行っている。1，2歳児は、落ち着いた環境を整えホットくつろげる環境を作る・子どもの発達過程、生活リズム、心身の状況に十分配慮して過ごせるようにする・異年齢との関わりの中で安心できる場所で好きな遊びを楽しむ等が記載されている。3，4，5歳児にはそれぞれ基本的な生活に対する子どもの取り組みや、友達との関わりの中の自己表現や協力を記載して、発達に応じた配慮内容となっている。

延長保育は1歳児室を使用することで、子ども達がのんびり過ごせるようにしている

延長保育の時間帯には1階の玄関側の1歳児を使用して、1，2歳児は移動せず幼児クラスは小さいクラスに移動する事で、床に座り落ち着いて過ごせるようにしている。1歳児室の一角には何も置かないスペースを作り、子どもが寝転んだりゆっくりできる場所となっている。また延長保育専用の玩具を用意して、子どもや職員が少なくなる時間帯に出して遊ぶことで、少人数でも楽しく過ごせるように工夫している。2階から幼児クラスの子ども達が合流する際には、持ち帰る荷物を一式持参して、お迎えの際にすぐに帰れるように配慮している。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◉あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◉あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○非該当
◉あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

年間食育クラス活動計画を作成して、年齢に応じた様々な食育に取り組んでいる

栄養士、保育士が相談しながら年間食育クラス活動計画を作成して、子どもの発達に応じて月ごとの食育活動に取り組んでいる。春には3，4，5歳児へ手洗いやスプーン等の食具の持ち方の再確認を行い、夏野菜の栽培に向けて子ども達が話合いで決めて取り組んでいる。6月には5歳児に箸の使い方と食事のマナー、三食食品群について栄養士から指導を行っている。2歳児室には食事コーナーを設定して、お腹が空いた子どもから食べはじめられるように工夫し、3，4，5歳児はトレーを持ち食べる量を職員へ伝えて、盛り付けてもらうようにしている。

野菜やお米の栽培から収穫までを体験して、食の大切さを実感している

毎年地域の方から稲の苗を頂き、5歳児が6月には苗植えを行い成長を観察して、10月に収穫をしている。今年度はお米屋さんへ収穫した米を持っていき、脱穀方法や精米の流れの説明を聞き実際の様子を見学している。11月には地域の方に頂いたお米に自分たちで掘ったさつま芋を入れてさつま芋ご飯を炊き、園で収穫した新米は土鍋で炊いて自分でおにぎりを作り、米と食べ比べを楽しんでいる。食べ物が自分たちの口に入るまでの作業や過程を体験することで、食の大切さを意識するきっかけとなったことがドキュメンテーションに掲載されている。

野菜の栽培と収穫体験、クッキング等を通して子どもが食の流れを学んでいる

毎年、3，4，5歳児が夏野菜の栽培に取り組んでいる。子ども達が話し合いでトマト・パプリカ・茄子・かぼちゃ・すいかに決定し、苗を植え毎日の水やりや雑草取り等をしながら、成長の様子に関心持ち観察している。夏には成長した野菜を収穫して給食で味わい、最後の収穫の野菜では3，4，5歳児合同で、夏野菜クッキングを行っている。野菜洗いやピーラーでの皮むき、包丁で茄子を切る等年齢に応じて作業過程に携わり、生地の上に切った野菜とチーズを盛り付けてピザを作り味わう等、子ども達が栽培から食するまでの流れを楽しみながら学んでいる。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
◉あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○非該当

評価項目7の講評

姉妹園の看護師と連携をとりながら、子どもの健康や成長を確認している

園には看護師が常駐していない為、子どものケガや体調不良の際には、必要に応じて近くにある法人の姉妹園の看護師へ相談したり、来園してもらい直接子どもの様子を確認してもらいようにしている。さらに子どもへの手洗いうがい等の健康指導も看護師から行い、手洗いチェッカーとブラックライトを使用して汚れを見える化する等して、子どもたちの健康に対する意識を高めている。毎月の身長・体重測定や園医による定期健康診断や歯科検診を行い、その結果は「けんこうてちょう」に記載して保護者へ伝え、早期治療につなげるようにしている。

毎月自衛消防訓練を通して、子どもと職員の安全への意識を高めている

園では毎月様々な地震や火災等を想定して、子どもと職員が安全に避難できるように訓練を重ねている。4月には図上で避難経路や広域避難場所の周知徹底を図り、実際に地震から火災発生の訓練を行い、子ども達へ「お・か・し・も・な」の約束を知らせている。7月には二次災害を想定して第一避難場所へ避難する訓練を行い、9月には法人3園合同の避難訓練を行い、ひろばの母親へも呼びかけを行っている。更に5歳児は3園合同の起震車・煙中訓練に参加して、揺れや煙を体験し安全への意識を高めたり、11月には保護者の引き取り訓練も行っている。

医療的なケアが必要な子どもには、医療機関の指示に応じた対応を行っている

子どもの状況に応じて、園での与薬が必要な時には、「保育園で与薬する場合について」の書面を配布しながら保護者に丁寧に説明を行っている。書面には医師からの「与薬指示書」と保護者記載の「与薬連絡票」に応じて、預かること等が記載されている。熱性けいれん等に対する座薬の預かりは基本的に行っていない旨と、やむを得ず預かる際の必要事項も記載されており、園長、看護師、保育士との面談の上決定している。預かる薬等の情報は全職員で把握して、定期的に使用方法等を含めたシュミレーション等も行い、適切に使用できるように努めている。

8 評価項目8
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	◯非該当

評価項目8の講評

個々の保護者の様々な事情に配慮して、支援や援助に努めている

園では様々な事情の家庭の子ども達を受け入れており、小規模園の良さを発揮して、全職員が全園児の家庭の事情や状況を把握して、登降園の際には子どもや保護者の様子や連絡帳の内容に気を配り、気になる時には担任保育士や主任、園長から声をかけている。保護者からの相談にも応じて個別面談を行い、必要に応じて行政と相談しながら支援や援助に繋げるようにしている。子どもと保護者が無理なく保育園生活が送れるよう、送迎時間にも配慮したり、突然の保育時間の延長や延長保育の申し込みにも、柔軟に対応している。

保護者会や行事等、保護者同士が交流できる機会を大切にしている

今年度から対面式での保護者会や、親子ふれあいデーを再開して、保護者同士が交流できる機会となっている。春の保護者会では、年間の目標や子ども達の発達の目安、取り組みを知らせた後、保護者の自己紹介やフリートークの時間を設けている。事前に保護者にどんな内容が知りたいか、話したいかのアンケートを集め、その内容からテーマを決めて一言ずつ話してもらうことで、保護者同士が気持ちを共有し合う機会となっている。また昨年度は12月末にはお迎え時の「歌合戦」では、保護者と職員も思い切り楽しむ機会となっている。

5歳児の保護者対象に、児童館の説明会を行い安心感に繋げている

今年度、保育ネット烏山の取り組みとして、5歳児の保護者対象に地域の児童館4館の説明会を行っている。小学校入学後の子どもの生活について、初めて就学する子どもを持つ保護者は、学校が終わった後の生活についてまったくわからず、不安を抱えている状況に、公立・私立保育園が共同で企画して、地域の児童館の職員による説明会を開催している。児童館・学童・ポップそれぞれの施設の違いや内容の説明、利用の仕方・過ごし方等を丁寧に説明してもらうことで、保護者に様々な選択肢があることが理解され、安心感に繋がっている。

9 評価項目9
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	◯非該当

評価項目9の講評

地域資源を活用して、子ども達の多様な体験の機会を確保している

近隣の様々な公園には子ども達が散歩に出かけ、遠い公園へは遠足を企画して外で弁当を味わう等している。さらに地域の公私立保育園との交流を再開して、5歳児が他園の取り組みに参加してゴミ収集車のスケルトンを見学したり、5歳児同士での交流を楽しんでいる。他にも法人3園の交流会を週1回開催して、5歳児が電車に乗り高尾山遠足に出かけたり、起震車煙中体験、清掃工場見学等を行っている。地域の商店街では子ども達が買い物をしたり、精米をお願いしにお米屋さんへ出かける等、地域資源を活用して子どもが多様な体験をしている。

園の行事へ地域の方の参加を呼びかけ、職員以外の人と交流できる機会を大切にしている

園では「地域便り」を発行して、園の様子やお散歩体験、園庭開放等の情報を掲載して、地域の家にポスティングしたりぽぽちゃん広場に設置して、参加を呼び掛けている。園内での交通安全教室の際には地域の他園の子ども達を招待したり、夏にはスイカ割りやプール遊びにも地域の親子を招待して、テラスで在園児の子ども達と一緒に交流しながら楽しんでいる。園の夏祭りにも地域の親子を招待して、法人の敷地内をお神輿を担いで練り歩き、ぽっぽちゃん広場や地域の人に声をかけてもらい、子ども達が職員以外の人と交流できる機会を大切にしている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル①	看護師や園医と連携を取りながら、安全対策や衛生面等に園全体で取り組んでいる	
内容①	園では看護師は常駐していない為、法人の姉妹園の看護師や園医と連携を図り、子どもの体調やケガについて相談したり情報を得るようにしている。入園の際には園医の健康診断を受け、健康面やアレルギー等がある場合には、看護師の面談を実施している。また看護師から子どもへ手洗い指導等の健康教育を実施し、保育室の消毒や清掃は各クラスの保育士がチェックリストを基に毎日実施している。さらに園長や主任も毎日巡回をして、衛生面や安全面の点検に努めており、園の安全対策や子どもの病気等の対応について、保護者の満足度も高まっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	子どもが主体性的に、園生活を楽しく豊かに広げられる環境作りを工夫している	
内容②	園では子どもが主体性や自主性を発揮できるよう、常に保育室の環境の見直しに取り組んでいる。法人3園の園長会で環境に注視して他園の施設見学を企画している。見学の際に動画を撮り、見学後に3園合同の報告会ではその動画の見ながら報告を行い、全職員が環境について学びを深めている。園ではその内容から全クラスの環境を大きく見直し、様々な工夫を凝らしている。中でも2歳児のままごとコーナーの充実や、2階のとことん遊べるコーナーには様々な素材や教材等を充実させて、子どもが主体性を発揮しながら豊かに広げられる環境が工夫されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル③	手作りマルシェ等の取り組みを通して、地域支援・家庭支援の充実に努めている	
内容③	職員の業務分担のなかで地域子育て支援を位置付けて配置する等、園では、地域支援活動の充実に取り組んでおり、さまざまなな活動を定例開催して地域の子育て家庭をはじめ、住民が参画できる機会を用意している。手作りマルシェでは、毎回、職員が得意なこと等も含め、楽しめる企画を検討して地域社会へPRして参加を得ている他、園に集合して一緒に公園へ出かける等、交流の視点も盛り込みながら、気軽に子育ての悩み等ができる、顔の見える関係性を構築しつつ、地域支援、家庭支援の充実に努めている。	

《事業所名: 小さなおうち保育園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	ミニアセスメントシートの活用や意見表明の機会の確保等、子どもの人権擁護を重視した保育の展開に努めている
	内容	園では、子どもの人権擁護を重視した保育が展開できるように、ミニアセスメントシートを導入し、子ども一人ひとりの困り感等を職員間で共有して保育実践へつなげる取り組みが定着している。シートで把握した内容について相互に話し合うことを繰り返すことで、各職員の人権意識が高まっている。幼児については自分の意見を表明する機会を意図的に用意して保育に取り入れている他、自分の考えを言葉で表現することが難しい乳児についても、何を求めているか等を各職員が推察しつつ検討を進め、日頃の保育への反映に努めている。
2	タイトル	一人ひとりの子どもの姿や様子に応じて、保育者が丁寧に援助したり環境を整えることで、子どもの主体性や自己肯定感を育んでいる
	内容	少人数園の良さとして一人ひとりの子どもの姿を把握して、丁寧な援助を大切にしている。例えば5歳児の運動へ苦手意識が強い子どもへ、保育者がさりげなく誘い掛け日々の援助や応援を、子どもの様子に合わせて丁寧に行うことで、徐々に縄跳びが飛べるようになり自信に繋がっている。更に保護者参加の運動遊び「親子ふれあいデー」で、大勢の人の前で披露できたことで、その後の活動でも積極的に自分の意見を話したり、人前で歌う等今まで見られない姿を発揮している。保育者の丁寧な援助が、子どもの主体性や自己肯定感を育むきっかけとなっている。
3	タイトル	想定されるリスクについて予防対策を講じることに加えて、各職員が計画通りに行動できるように訓練を行い、災害発生時に備えている
	内容	子どもの安全確保に向けて、事故予防と感染症予防、安全管理の領域について組織体制を整えて実施している。例えば、BCP（事業継続計画）について、災害と水害、新型コロナウィルス感染症に関するものを整え、大災害が発生してライフラインがすべて停止した場面でも保育が安定的に行えるように、部屋の照明を消して訓練を実施して検討する等、各職員が具体的にどのように行動すればよいかを話し合い、課題の抽出と対策の強化に努める等、計画の内容に基づく訓練を行い、検証しながら職員全体の理解促進を図っている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	独立した休憩室が確保できたことを受けて、それぞれの職員が休憩時間を確実に確保できるように調整していくことが期待される
	内容	職員一人ひとりが子どもの特性や発達・成長段階に応じた保育に努める一方で、勤務時間中に気分転換し、リフレッシュできる機会を十分確保できていないことが課題の一つとなっている。今年度は、園舎から離れた場所に独立した園専用の休憩室を設置する工事も行われており、休憩できる環境の整備が進んでいる。今後は、職員一人ひとりの勤務シフトを考慮して休憩時間を明確に定め、ノンコンタクトタイムを確実にとれるように調整を図っていくことが期待される。
2	タイトル	職員の業務の効率化やよりスムーズな情報共有を促進するために、記録のIT化を計画的に促進していくことが望まれる
	内容	会議録の作成をはじめ、職員間での共有が必要な情報を作成して情報毎に個別にファイリングしたり、場所を決めて保管することで情報共有しやすく整えている。一方で、作成される書類の多くが手書きであり、担当する職員によってはパソコンで入力して作成している状況もうかがえる。記録にかかる業務負担もみられるため、今後は計画的に記録のIT化を促進し、業務の効率化および、よりスムーズに情報共有できる環境を整備していくことが望まれる。
3	タイトル	重要な案件や園の方針等について全職員の理解を促進するために、非常勤職員との情報共有や意見交換する機会の充実が期待される
	内容	重要な案件を全職員で共有するために、定例の職員会議の他にも、毎日のミーティングやその記録等で共有している。なお、園の方針や運営上の重要な決定事項について、非常勤職員も含めて共有することが懸案事項の一つとなっている。来年度からは、4月に開催される法人全体研修に非常勤職員も出席することを予定しているため、社会支援、家庭支援等の法人や園が目指していることの浸透はもとより、園内でも直接話し合う機会を増やし、一体感を高めていくことが期待される。